

イチゴの組織培養苗を用いた夜冷短日処理栽培での最適育苗日数

園芸試験場

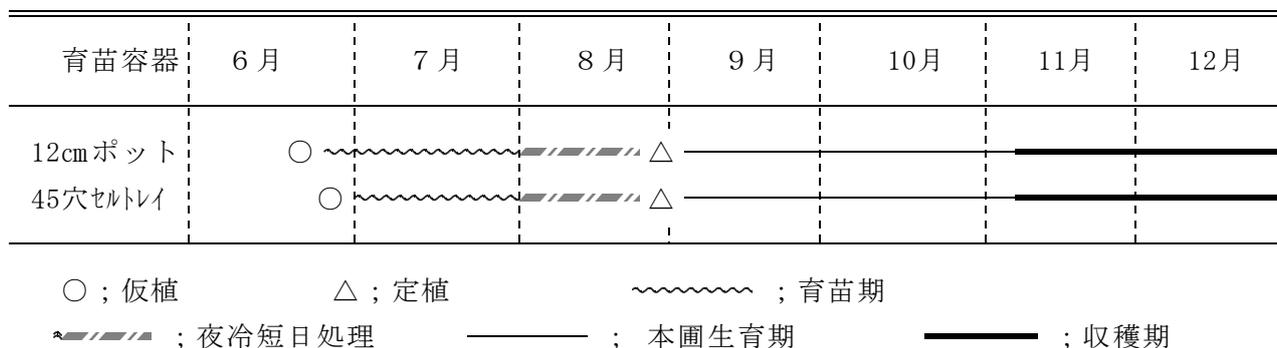
1 取り上げた理由

イチゴ栽培における育苗は親株管理や採苗作業に労力がかかることから省力化が望まれている。近年、組織培養苗がセル成型苗の形態で市販されており、イチゴの育苗省力化の新たな方向として注目されている。そこで、この組織培養苗を12cmポリポット及び45穴セルトレイに仮植して育苗する方法で、夜冷短日処理促成栽培に適した育苗日数を検討したところ成果が得られたので参考資料とする。

2 参考資料

組織培養苗を用い8月上旬から夜冷短日処理を行う場合、処理開始前に必要な育苗日数は収量性から12cmポリポット育苗では約45日、1穴130cc程度の45穴セルトレイ育苗では30～40日とする。

夜冷短日処理苗に組織培養苗を利用する場合の育苗スケジュール



3 利活用の留意点

- 1) 組織培養苗は128穴セルトレイで市販されており、この時点での苗は草丈2～3cm、クラウン径1.5～2mm程度の草姿である。
- 2) 夜冷短日処理に供する苗は窒素制限をする必要はないので、育苗中に肥切れしないように適宜追肥を行う。
- 3) セルトレイで育苗する場合には、育苗日数が長すぎると頂花房の収量が低下しやすいので注意する。

(問い合わせ先：園芸試験場栽培部 電話022-383-8132)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

イチゴの育苗省力化技術の確立 平成9年

寒冷地における野菜施設利用の効率化と省力, 低コスト, 高品質生産技術の確立平成10年

2) 参考データ

表-1 組織培養苗をポット育苗した場合の収穫開始時生育 (1997年11月7日調査)

育苗日数	草丈 (cm)	葉数 (枚)	開花数 (個)	開花日 (月日)
夜冷前56日育苗	18	6.3(4.0)	9.5	10/12
〃 43日育苗	17	6.1(4.0)	6.2	10/10
〃 26日育苗	14	6.5(4.0)	5.5	10/12
慣行ポット育苗	19	6.3(4.5)	7.8	10/12

注) 供試品種は「女峰」でポットはいずれの区も12cm^ホリ^ホット。葉数の()内は花芽分化確認時の内生葉数。
夜冷短日処理は1997年8月5日から20日間処理。

表-2 組織培養苗をセルトレイ育苗した場合の収穫開始時生育 (1998年11月2日調査)

育苗日数	出庫時 葉数(枚)	葉数 (枚)	着花数 (個)
夜冷前42日育苗	5.9(4.0)	9.6	16.9
〃 31日育苗	5.2(4.0)	9.3	14.2
夜冷当日移植苗	5.8(3.5)	9.5	14.5

注) 供試品種は「女峰」でセルは1穴130cc。出庫時葉数は9月4日調査, ()内は花芽分化時の内生葉数。
夜冷短日処理は1998年8月10日から20日間処理。

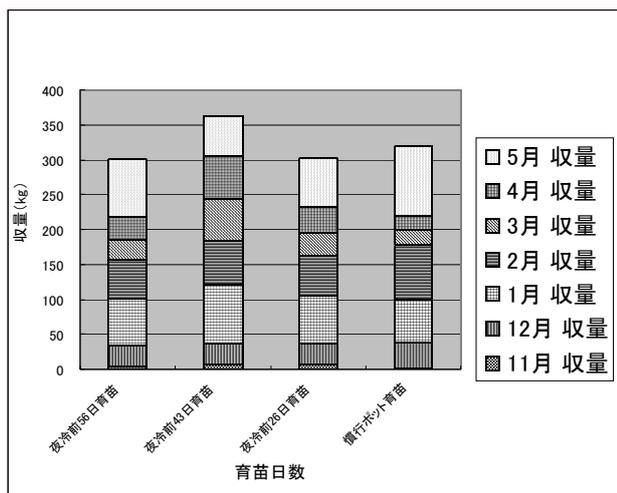


図-1 ポット育苗1997~1998年月別商品果収量

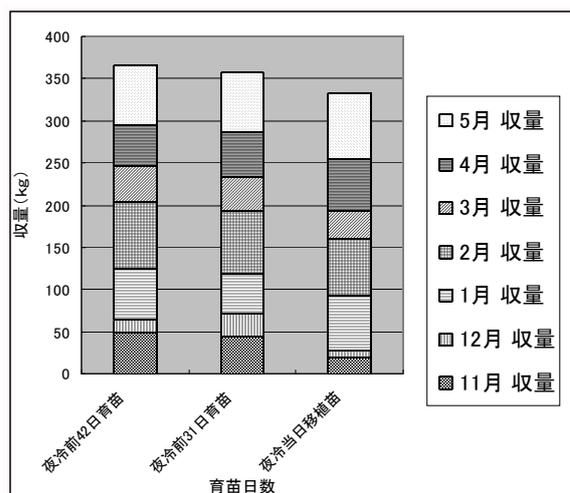


図-2 セルトレイ育苗1998~1999年月別商品果収量

3) 発表論文等

平成11年度園芸学会東北支部会